

団体ヒアリング結果

説明資料 3

【対象団体】

社地域: 老人クラブ社支部理事

東条地域: 老人クラブ東条支部役員

滝野地域: 生活支援体制協議体(区長・老人クラブ・民生児童委員・介護事業所・いずみ会・JA女性会・商工会女性部・学校関係等)

テーマ	現状・課題	意見
老人クラブ活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳代の若い年齢層は老人クラブというネーミングへの抵抗感や社会貢献よりも個人活動の優先、入るメリットが感じられない等の理由で入会しない。 ・補助金申請事務や活動の負担により、とくに役員のなり手が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアポイント制度で将来にメリットを付加する。 ・活動の本来の目的や趣旨の共通理解が大切である。「外出」「交流」「お世話」が健康寿命の延伸につながる。 ・独居高齢者で困っている人の生活支援活動のしくみづくり ・人の役に立つことが生きがいづくり
交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブやサロンに参加しない人が多く、近隣の交流がないため、どんな人が住んでいるのかわからない。 ・身近に集まれる場所がない。 ・無料で食べる企画のときには大勢集まる。 ・まちかど体操の終了後にお茶の時間を持っている。 ・地区の祭りや盆踊りなど、区長が実行委員長イベントでは年代関係なく参加があり世代交流ができる。 ・ふれあいサロンでは200円の参加費で月1回季節の行事等の内容を工夫している。 ・就農に関する行事(溝掃除後の食事会等)を合わせると、年間通して月1回程度は集まる機会はある。1軒に1人の強制参加のため、参加率がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無料または実費程度で食べることを内容に盛り込む。 ・楽しい企画で集まりやすい雰囲気作りが大切。 ・地区公民館まで歩いて行けるようにすることが小地域の活性化になる。 ・強制参加
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける範囲に店が少なく、移動手段がないため買物が不便。 ・配食のサービスが少ない。 ・独居や日中独居が多く、食事や掃除等の生活支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニの活用(宅配等) ・移動販売